

ぽれぽれ 通信

スローガンだけでは

終わらせない

7・8月号
vol.59



大学生たちの声が 国会に届いた日

報道する価値があると思われたのであろう、と信じたい。

事の発端は、3月下旬に地元のJR大船駅前に構えている山本ともひろ本部事務所に一本の電話が掛かって来たことにさかのぼる。神奈川県内のある大学生が、国会議員の事務所に勇気を出して電話をして来たのである。その電話の内容は、「学費のない社会を目指す神奈川学生プロジェクト(通称…リリーズ)」に所属しており、同サークルでアンケート調査を行ったので、その結果をもって国会議員と現状について話したいということであった。主要各党の議員に、それぞれ会いに行きたいと考えており、自民党は山本にした、とのことで、山本事務所のスタッフが「県内に自民党

5月、久しぶりに山本が、委員会で質疑に立った。その様子を地元紙である神奈川新聞が報じたので、お気づきになった読者もいるだろう。近年、国会は、一年中ほとんどの期間が開会されており、通年国会と言ってもいい状態である。従って、日々、たくさんの委員会で様々な質疑が行われている。しか

し、それらが報道機関に取り上げられることは、ほとんどない。数が多すぎて報道できないのか、内容が報道するほどの価値がないと思われるのか、あるいは、そのどちらともなのか、理由は分からないが事実として報道されていないのは確かである。少なくとも今回の山本の質疑が取り上げられたのは、

の国会議員は沢山おり、なぜ山本ですか？」と尋ねたところ「全員、ホームページの写真などを見て、山本さんが一番話し易そうだったから」と大学生らしい答えが返ってきたそう。

てつきり、山本が衆議院の文部科学委員会に長く所属をし、同委員会の理事や文部科学大臣政務官を務めるなど、文部科学行政に明るいと思って白羽の矢を立てたのかと思いきや、写真を見て決めただけだったのである。理由は、どうあれ自身の連絡先などもきちんと明らかにし、話したい内容も要領を得ていたので、日程調整を行い4月上旬に面会が実現した。

リリースが実施したアンケート調査は、2020年のものと2021年のものと二つあった。

つまり二年に渡ってアンケート調査を実施しており、コロナの影響が長引いていることが、ここからも容易に想像がついた。

そして、どちらのアンケートでも学費の無償化や学費を半減してほしいなど、学費の低減を訴える声が多かった。さらに、2020年アンケートでは、64.8%の学生が、今の「政治」に期待することとして「学費の削減に取り組んでほしい」と回答していた。期待されていることを無視することのできない性格の山本が、「これは、やらないと！」と思うのにさほど時間は掛からなかった。

大学生たちと 真剣な議論を

しかし、アンケート結果を見ると「通学が出来ていないので大

学施設費を返還してほしい」や

「学費を無償化してほしい」など、お金の話が大半であり、それら全てに山本も納得が行っていたわけではなかった。そこで、国会事務所に来所した学生たちと山本との議論が始まった。「大学に行けずに一度も利用したことのない図書館の施設費を学生が払うのはおかしい」、アンケート結果によると親の年収が200万円〜400万円と決して裕福とは言えない家庭環境の学生が多く、その点も踏まえて「そもそも学費を無償化して多くの若者に学ぶ機会を与えてほしい」などなど、学生たちから熱弁が振るわれた。山本は、時折、大きく頷くなど熱心に学生たちの話に聞き入っていた。そして、一通り学生たちが話し終わると、山本は、

ゆっくりと語り始めた。「確かにコロナで大学に行けないのは悲しいよね。ただ、利用していない、出来ていない、というだけで大学施設の維持管理費を払わなくていい、となると普段でも一度も図書館を利用しない学生は払わなくていい、となる？ ならないよね。全ての施設を含めて大学であり、それらをみんなで維持していかなくてはいけないよね。学費に関しても無料！というのは、とても魅力的に思うかもしれないけど、本当にそうだろうか？ お金を払うから真剣に勉強する、払ったからには元を取りたい、だから一生懸命になる。学費を払っていない親や保護者は、ちゃんと勉強しているの！」とみんなに言わなくなるんじゃないかな。どうだろう？」と学生たちにも分かる

ようにやさしく丁寧に色々な事象を紹介しつつ、話し続けた。学生たちも山本の話真剣に聞き、山本の話が全て終わると「大変勉強になりました。物事には、色々な側面があつて、様々な考え方があると良く分かりました。今日いただいたアドバイスを基にまた引き続き活動していきたいと思います」と学生たちの顔も、国会事務所に来た当初の緊張した表情からにこやかで少しどこか晴れ晴れとした顔へと変わっていた。

最後に山本が「今期の国会で、文部科学委員会に所属しているの、質疑の機会があれば、君たちのアンケートを取り上げようと思うけど、どうだろうか？」と切り出すと、学生たちは「本当ですか！是非、お願いします」と即

答し、充実した議論をしてすっきりしていた表情が更に笑顔になった。その約束が、あまりにも早く実現するとは、その時は、まだ誰も知る由も無かった。

思い立ったが吉日 即時実行が信条

学生たちとの面会后、山本は、早速、文部科学委員会の与党側の質疑者の割り振りを担当している理事に連絡を取り、質疑に立たせてほしいと要請した。実は、自民党の国会議員が委員会の質疑に立つのは、難しい。なぜなら、少数会派（議員数の少ない政党・会派）に質疑時間をたくさん提供している現実が、そこにはある。自民党に与えられる質疑時間はとても少ない上に、自民党の国会議員は他党よりも大勢いるので、質疑に立て

る人数が必然的に限られてくる。加えて、山本は、文部科学大臣政務官や防衛副大臣など政府の役職についていた期間も長く、その間は、政府を代表して答弁に立つことは多々あっても質問する機会は当然ない。更に、文部科学委員会の理事を務めていた際は、質疑者を割り振る担当になっており、その時々

の議題に明るい議員を選んだり、党内で熱心に活動している議員をピックアップしたり適切な質疑者を抜擢するなど、自民党では数少ない質疑に立

てる機会を仲間の議員に出来るだけ全員が納得できるように人選にして割り振っていた。従って、「代打、俺！」のような自分で自分を指名するようなことは出来ない立場に長くあり、山本自身も長く

質疑に立っていないなかった。

ただ、長く質疑の機会を得られていかなかったことが功を奏したのか、今回は、すぐさま質疑者に抜擢された。今までも度々、質疑の機会を得ていたら、他の議員に譲ってあげるべきだ、と機会は巡って来なかったかもしれない。しかし、なかなか質疑に立っていないと仕事をしない議員と勘違いされることもある。その最たるものが、NPO法人「万年野党」なる団体が質疑の回数や質問主意書の回数などで議員を『三ツ星議員』と称して表彰しているケースだ。自民党に所属していれば、前述のような理由により質疑には、なかなか立てなかったり、一生懸命、政府を代表して答弁した

りしてもそれはカウントされない。また質問主意書は政府に関与できない野党議員にとつては、大切な権利ではあるが、自民党の議員が質問主意書を出すことはまず無い。直接、担当の大臣に聞けば済むからだ。何はともあれ、今回は質疑の機会を得た山本は、準備万端、委員会に臨んだ。

文科大臣から 共感を得る

5月12日、衆院文部科学委員会には、質疑に立つ山本とそれを受けて立つ萩生田光一文部科学大臣の姿があったが、加えて、



▲萩生田文科相に質問する山本



▲山本の質問に答える萩生田文科相

傍聴席にはリリースの学生の姿もあつた。山本は「学費の無償化や半減を訴える声大きい。今の『政治』に期待することにも挙げられているが、政府はこの期待にどう応えていくのか、大臣の考えを聞かせてほしい」と萩生田文科相に問いかけた。萩生田文科相は「コロナの非常事態で入学式もなければ、（オンライン授業で）クラスメートに会ったこともない。図書館やスポーツ施設も使えないのに、

授業料は1円たりとも返ってこない。学生の皆さんが不満に思うのは十分に理解できる」と山本の指摘に共感を示した後に、「授業料はあくまで各学校が決めること。学生が納得できるように十分説明する、補填するところが必要ではないか」と明言した。緊張した面持ちで審議を傍聴席から見守っていたリリースの学生は、委員会後に「自分たちの声を取り上げて貰えたのは大きな成果」と満足していたが、「まだ目標を達成したわけではないので、この一步を次につなげたい」と意気込んでいた。本当に学生たちの声を国会に届けた山本も引き続き彼らの声を丁寧に取り上げ続ける決意を固めていた。山本の大先輩である某参議院議員が、昔「市民の声を国政に！」とのスローガ

ンを掲げていたが、山本は見事にそのスローガンをスローガンだけで終わらせることなく実現させた。このようなケースは実際には、残念ながら少ないのであろう。だからこそ地元紙である神奈川新聞が大きく取り上げたのだと思われる。先輩議員も草葉の陰から、さぞかし喜んでいることであろう。声をあげることは大切だ、言わなければ決して伝わらない、そのことを実践したのが、今回の山本のケースであろう。読者の皆様も何かあれば、山本にその声を届けてみては、どうだろうか。何かが変わるかもしれない、何か動くかもしれない。今回のことは、そんな期待を多くの読者に抱かせたのではないだろうか。このようなことがあれば、また本誌でも取り上げたい。



駅で「ぽれぽれ通信」をお配りしております 駅頭活動報告

「Twitter見てます」
「頑張ってください」など
沢山のエールを頂きました。
また一分一秒を争う通勤時間帯にもかかわらず、
わざわざ私のところまで
受け取りに来て頂いた方も！
本当に皆様有難うございました！

朝の6:30～8:30までの2時間にわたり、4区内の
下表の駅で活動をさせていただいております。

※雨の日は鞆と傘をお持ちの皆様が多いので、駅頭活動を控えています。



前回の「ぽれぽれ通信」配布数

5月・6月集計分

駅名	5月	枚数	6月	枚数	前月比
逗子駅	11日(火)	255	1日(火)	251	➡
新逗子駅	12日(水)	155	2日(水)	201	⬆
鎌倉駅(東口)	25日(火)	202	11日(金)	210	➡
鎌倉駅(西口)	14日(金)	241	3日(木)	242	➡
大船駅(西口)	17日(月)	222	7日(月)	216	➡
大船駅(モノレール口)	18日(火)	229	15日(火)	233	➡
大船駅(東口)	19日(水)	226	8日(火)	259	⬆
大船駅(笠間口)	20日(木)	288	9日(水)	263	⬇
本郷台駅	26日(水)	263	10日(木)	281	⬆
港南台駅	24日(月)	162	18日(金)	158	➡
	5月配布合計	2,243	6月配布合計	2,314	⬆

簡単にアクセス
できます!

Twitter facebookは本人がやっています

専用のアプリをダウンロードして右のQR
コードを読み取りください。(iPhone除く)



Twitter



Facebook



HP

山本ともひろプロフィール

経歴

- 関西大学 商学部 卒業
- 京都大学 大学院 修士課程(法学)修了
- (財)松下政経塾 卒塾 (21期)
- 米国ジョージタウン大学 客員研究員、その後、会社員を経て
- 平成17年 衆院選 初当選
- 平成26年 文部科学大臣政務官・復興大臣政務官 就任
- 平成27年 オリンピック・パラリンピック大臣政務官 就任
- 平成29年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 平成30年 自民党 国防部会長 就任
- 令和元年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任

自由民主党 衆議院議員(4期 12年)

神奈川4区(栄区・鎌倉市・逗子市・葉山町)

昭和50年(1975年)生まれ
46歳 鎌倉在住



分かりやすいと大人気!

国会見学案内実施中!

国会を山本ともひろと一緒に見学してみませんか?

「政治が身近に感じられた」「分かりやすく、楽しかった!」と大人気の見学ツアーは無料で行っています。詳細は下記の事務所まで、お気軽にお電話ください。



ぽれぽれ通信って何?



「ぽれぽれ」は、ケニアの公用語のスワヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり」という意。私は、ケニア・タンザニア米国大使館同時爆破テロの現場(ケニア)に居合わせたのがきっかけで政治家を志しました。

一度に全てを変えることは無理でも、諦めず、ゆっくりでも少しずつでも政治を変えていきたい。そうしなければこの国は良くなる...。そしてその活動を皆様にお伝えしていきたいという想いを込めて、この冊子を作っています。



山本ともひろ事務所リスト

本部事務所

神奈川県鎌倉市大船1-6-6 大久保ビル3F
TEL:0467-39-6933 FAX:0467-39-6943

国会事務所

東京都千代田区永田町2-1-2 第2議員会館 1110号室
TEL:03-3508-7193 FAX:03-3508-3623

令和3年(2021年)7月1日発行 第59号

※本誌は、隔月(1、3、5、7、9、11月)発行の機関誌です。バックナンバーについては上記事務所までご連絡ください。またHPにも掲載しておりますのでご覧ください。